

HSK

なんれん

おとふけ

No 55

昭和48年1月13日第三種郵便物認可
HSK通番第366号2002年9月10日
毎月10日発行(1冊100円)
(会費に含まれています)編集 財団法人北海道障害者支援センター
発行 北海道身体障害者団体
・定期刊行物協会(HSK)

難病患者・家族の交流会

ごあんない

とき

2002年10月20日(日)
13時～15時

ところ

音更町共栄コミセン2階研修室
(木野西通17丁目 / TEL30-4733)

参加対象 町内在住の難病患者・家族

内容

日常生活や病気等で悩んでいること
皆さんがかかわっている医療の実態等を
話し合ってみませんか

- 当日は帯広保健所と音更町保健センターの保健師さんも参加して下さいます。
- 参加するのに、介助や送迎が必要な方は連絡下さい。会場にはエレベーターと身障トイレあります。
- 体調をととのえて、是非ご参加下さい。お茶菓子も用意しています。

◎ 参加する方は 10月19日(土)までに
事務局まで電話かファクス下さい

TEL・FAX

花見で笑顔がいっぱい

6月23日、少々肌寒い日でしたが、15名参加のもと、11時から簡保の宿「十勝川」で花見が開かれました。

12時の食事までの時間は、お風呂に入って体を温めたり、売店で買物をしたりして過ごしました。いよいよ楽しい食事の時間です。

まずは自己紹介から始まりました。ボランティアで参加された方が、室内では花がないのと言いながら、白い花をアツという間に赤い花に替えるマジックで、花見気分を盛り上げてくれました。

乾杯して食事といきたいのですが、肝腎のビール、ジュースがなかなかこなくて、皆でお弁当を前に待ちぼうけしながら、今度は話に花を咲かせ、ひたすら飲み物を待っていました。食事も大変おいしかったです。



お腹も一杯になったところで、スカットボールの始まりです。1人5回ずつ打ち転がし、入った数の合計点で順位を決めるゲームです。

淡々と無心で打つ人は、ボールがスーッと引き寄せられるように入っていく中、続々と出現する「入れてやろう」と意気込む人達は、穴の周りを回るだけで見事にはずれ、アーッと嘆息をついて天を仰ぐ姿に同情はするが、可笑しくて、普段の憂さを晴らすかのようにお腹の底から笑ってしまいました。私も笑われた一人です。

笑いで膨れたお腹を抱えながら、カラオケで心地よく酔わせてもらい、2時解散までの3時間は瞬く間に過ぎてしまいました。

「笑いの効用」が、医学的にも認知されつつある今、是非来年の花見にも沢山の人が参加して、一緒に笑って病気を空高く吹き飛ばしましょう。(清水記)



カロリー乾パンを完売しました

今年の「福祉まつり in おとふけ」は7月12日でした。

いつもより早かったのでJPCの署名活動はできませんでした。

聞くことはできませんでしたが、講演「生きる喜び絵筆にこめて」（交通事故で手足の自由を奪われた阿部 俊明氏の体験談で、ロビーには氏の作品がたくさん貼られています）や、浦河町「べてるの家」のみなさんが語る「弱さを絆に～べてるの歩みから～」などは、障害に苦しむ人達に大きな励ましになったと思います。

「タオタオ～12ヶ月の精と子ジカ～」（動物たちの愛と勇気と友情～そして思いやりと優しさを描いたアニメ）、車椅子の女性が空き缶を集めて、お年寄りに車椅子を100台も贈ったという実話を映画化した「ポコポコ」の上映や、「宝来ひょっとこ踊り」、「つばさバンド」の演奏など、「福祉まつり」の中身は例年どおり濃いものでした。

「どんぐりの家」のコーナーは今年も大忙しだったようです。

目立ったことといえば、緑が丘病院のコーナーがなかったことと、浦河町の「べてるの家」の人達が大勢いたこと、入り口近くの出店がすくなかったこと、来場者が去年より少ないように思ったこと、などです。

難病連音更支部のコーナーは、去年より少し自動販売機寄りでした。署名用紙がありませんので乾パンの販売だけでした。「そんなに売れるものではない」はず、なのですが、2時過ぎには66袋すべて売れてしまいました。「お釣りはカンパ」といつてくださった方は、約1名でした。

お客さんには、顔見知りの方、難病連の活動に理解のある方が多いようです。そういえば数は忘れましたが去年も2時過ぎに「完売御礼」の張り紙をしました。

（会場で買った「べてるの家の 非援助論」はまだ読んでません）

by y, nakamura

香ばしい

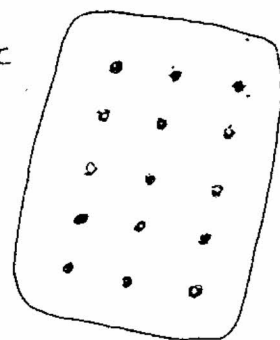
カロリーカンパン販売中

× 災害時の備え × 登山や釣りのお供に × おやつに

内容～4枚入りが4袋で 値段～370円（税込み）

取扱場所 難病連音更支部事務局 TEL

どんぐりの家共同作業所 TEL 43-2511



売上の益金は、音更支部の財源として活動に使わせていただきます。

全道集会参加者の声

「第29回 難病患者、障害者と家族の会の全道集会」が、8月3日、4日釧路にて行われました。私は毎年楽しみに参加させて頂いています。

8月3日のレセプションでは、釧路市長の「全市冷蔵で迎えた」との挨拶に、会場は大受け。港まつりとも重なり、早めに終了して、花火大会を楽しむ人や、部屋で交流をする人など、それぞれが釧路の一夜を満喫した様子でした。

4日は、それぞれの部会で、交流会や講演会が行われ、午後には全体集会が行われた。アトラクションでは、聴覚障害者協会による「蝦夷太鼓」が披露され、耳が聞こえないことをまったく感じさせない、素晴らしい演奏でした。その後、「患者、家族の訴え」「基調報告」などが行われ、全道集会を終えた。 ((心友会) 山田秀則)

8月3日、4日、釧路で全道集会があり、主人と参加しました。

3日、レセプション会場の挨拶の中で、全市冷房でお迎えしましたというジョークが出るくらい寒かったのですが、知った顔何人かと会えましたし、また手紙のやりとりをしている方ともお話でき、楽しい時を過ごしました。

4日の分科会では、北祐会病院 武井先生の医療講演で、スライドによるこの病気の説明、薬のこと、今後の課題など、わかりやすいお話でした。またスライドの用意しかなかったのを、集中して聞けるようにとの配慮から、急遽ホテルの便箋にプリントを用意して下さったとのこと、ありがとうございました。

午後の全体集会では、同じ病気の方の訴えを聞き、前向きな姿勢に、私も頑張ろうと勇気もらいました。

最後に、釧路支部の方々の細やかな気配り、ボランティアの皆さんのやさしい笑顔でお世話下さったこと、夜 お変わりありませんかと、部屋を訪ねて下さったことなど、今思い返しても、準備も含め大変だったでしょうし、本当にご苦労さまでした。そして、ありがとうございました。 (戸崎記)

第29回難病患者・障害者と家族の会全道集会は、8月3日と4日の両日15年ぶりに釧路市で開催されました。主会場と分科会場、それに宿泊ホテルが近くに位置し移動が楽なように配慮されていたこと、心のこもった温かい歓迎をしていただいたことなどもあって、私にとっては大層快適で意義深い集会になりました。

本大会のスローガンは「ぬくもりのある医療と真の自立を目指し、今釧路からはばたく」でした。難病対策の見直しや、医療制度の改革など、私たちを取り巻く状況は厳しいものがありますが、「全ての難病患者・障害者・高齢者が安心して暮らせる社会の実現を」めざしてさらに努力を続けていこうと決意を新たにしました。

分科会は「釧路市交流プラザさいわい」で行なわれ医療講演がありました。講師は市立釧路総合病院統括診療部長 川端 真先生で『パーリジャー病（血管の病気）について』お話しして下さいました。

その内容は、①血管の病気になるいろいろな要因 ②病気の治療法の現状と今後の展望 ③患者の日常生活の上で注意すべき点などを、スライドを使いながら分かり易く解説をされました。そのうちのいくつかを挙げてみますと、病気の治療、特に末梢血管の手術では旭川医大が日本でベストの実績を有していること、また、いま話題の遺伝子治療の研究を近々スタートさせることなど最先端医療の情報を得ることができました。ただし、私たち患者が治療の対象となるのはもっと先のことになりそうですが、治療法は確実に進歩していることが分かり前途がさらに明るくなりました。

日常生活面では禁煙が第一ということです。血管のバイパス手術を例にとってみると、喫煙しない患者さんでも3年間の開存率（血管が正常に働く）は70%前後といえますから、たばこを吸う患者さんの開存率はもっと低くなるということです。二つめは肥満はダメ！減量しなさいということ、三つめはお酒もほどほどにということでした。この程度のことはだれでも分かっているのですがなかなか止められないのが実情です。しかし、手術のスライドを見たり、先生のお話を聞くと「やっぱり、がんばらなくては・・・！」と心底おもいました。このことは、全道大会に参加した一番の収穫だと思いました。

記念講演は高橋良治氏の『鶴になった男』でした。以前にも一度聞く機会がありましたが、今回のお話も軽妙な語り口に引き込まれて時の経つのを忘れるほどすばらしいものでした。

集会に参加して懐かしい方々との再開を喜び、釧路支部の佐藤支部長さんを始め役員の方々のご労苦に感謝しつつ「和商」の土産もしっかり積み込んで《霧とロマンの街》釧路を後にしました。

(大久保 龍雄)

日本患者・家族団体協議会（JPC）の 国会請願署名・募金行動にご協力を

この署名は10月12日に全国一斉街頭署名行動が行われますが、音更支部は10月6日（日）の音更町産業まつり会場で、街頭署名・募金行動に取り組むことになりました。当日は、どんぐりの家共同作業所が出店する場所で署名行動をさせていただきます。署名内容は、難病の早期原因究明などの要望事項で、当日以降も来年3月迄は署名・募金集めを行い、2003年度中には全国で集められた署名を難病患者・家族の代表が、直接国会議員に会って手渡します。来年は音更支部より2名が道東・十勝地区の難病連支部を代表して国会請願に行く予定です。

*10月6日の署名行動に参加してくださる方（10時～14時迄 短時間でもかまいません）

*また、署名を自宅や職場などで集めてくださる方

連絡下さい。よろしくお願ひします。

あ と が き

紅葉の季節となりましたね。

家のまわりには山ブドウ、コクワ、ドングリの実が成っています。

会員、家族の皆様、いかがお過ごしでしょうか。同じ音更町内に住んでいても、なかなか顔を合わすことが困難なのが現状です。

支部への要望や、会報に載せる体験記、俳句、川柳、短歌などの作品がありましたら是非送って下さい。役員が受け取りにも伺います。 (こ)

難病連音更支部

音更町宝来本通り 7 丁目 1

T E L ・ F A X 3 1 - 8 7 2 3

H S K ・ なんれん おとふけ

編集人 (財)北海道難病連 音更支部 毅内 さかえ
音更町

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可

2002年9月10日発行 通巻第366号

発行人 北海道身体障害者団体定期刊行物協会 細川 久美子
札幌市西区八軒8条東5丁目4-18